



農作業メモ

秋まき野菜の栽培のポイント

8月は、秋まき野菜の作付準備の時期です。ほ場の準備や、病害虫対策をしっかりと、品質の良い野菜を生産しましょう。

1 ほ場の準備

秋まき野菜には、だいこん、ブロッコリー、キャベツ、はくさい、こまつなとアブラナ科野菜が多くあります。同一科に属する作物を同じ場所に続けて作らないようにしましょう。

秋は、台風や長雨などの災害に見舞われる機会が増えます。作物は、数日間滞水すると根腐れを起こすので、水が溜まりやすいほ場では、圃場の外周に溝を切ったり、高さ10cm程度の高うねで栽培するようにしましょう。

2 土づくり

地力を維持するため、年に1度は完熟堆肥を10㎡あたり2t程度施用し、有機物を補給します。乾燥鶏糞等の未熟有機物は、窒素含有率が高く(窒素

成分3%程度)、土壌改良効果が低いので、肥料として考えましょう。

なお、土づくりのための堆肥の施用は、作付けの1か月程度前に行います。

また、露地畑の土壌は、一般にやや酸性ですが、偏った施肥によりアルカリ性に傾いている場合もありますので、JAの土壌診断を有効にご活用ください。

3 害虫対策

秋に作付の多いアブラナ科野菜を食害する害虫を紹介します。

(1) キスジノミハムシ

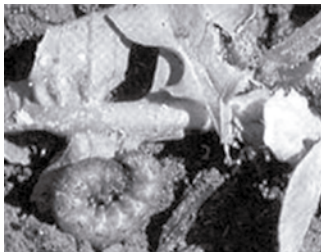
成虫は、背中の中側に黄色い筋2本の筋があるのが特徴です。体長2mm程度でノミのようにびんびんとびます。



写真① キスジノミハムシ成虫
体長2mm程度



写真② カブラハバチ幼虫
体長20mm程度



写真③ カブラヤガの老齢幼虫
体長40~45mm



写真④ ハイマダラノメイガ幼虫
体長15mm程度

写真 埼玉県病害虫防除所

下のゴマ粒状の穴を開けます。

幼虫は、だいこんやかぶの根の表面を食害し、被害の軽微なものは、1mm位の小さい穴が点々とあけられます。

被害がひどくなると一面みみずが走ったようなサメ肌状になり品質が著しく低下します。

(2) カブラハバチ

体長約20mm程度の黒紫色の幼虫が、太い葉脈だけを残して葉縁から葉を食害します。幼虫は、早朝や曇天の日には葉影に隠れ、晴天の日に葉上で加害します。触るとくるくとまるまって

地面に落ちます。

(3) ネキリムシ類(カブラヤガ、タマナヤガ)

若齢幼虫は、主に茎葉を食害しますが、実害はありません。中々老齢幼虫になると生長点を食害したり、株の根元を噛み切ったりするため、大きな被害となります。地表近くの土の中にいて、手で触れると丸まります。

(4) シンクタイムシ(ハイマダラノメイガ)

食害量は少ないですが、生育初期に、作物の芯葉を糸でつづり合わせながら生長点を食害するため大きな被害となります。

高温少雨の夏は多発生が予測されるので、は種前や定植時に薬剤等を利用して発生を防止します。